

## 1 題 材 もっと良いクラスになるために

### 2 情報活用能力育成に関する目標

クラスを良くするために自分にできることを考え、グループで互いの考えを伝え合うことで、自他の考えの共通点や相違点に気付き、整理することができる。

### 3 情報活用能力の高まりを検証する場面と方法

クラスを良くするために自分にできることを考え、付箋に書かせる。グループごとに大きな用紙に付箋を貼らせ、その内容ごとに整理させる。

### 4 情報活用能力の高まりにより期待される効果

自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に気付いて考えを交流することの良さを実感し、進んで自分の考えを述べようとしたり、友達の考えを聞こうとしたりすることができる。

### 5 実践の様子

自分のクラスが好きか、1年2組は良いクラスだと思うかというアンケートに対し、多くの子どもが「好き」「良いクラスだと思う」と答えていた。そこで、「では、そんなすてきな1年2組がもっと良いクラスになるために、何か一人ひとりにできることはないでしょうか。考えてみましょう。」と伝え、自分にできそうなことを付箋に書くように指示した。

時間を見計らって、グループ活動に移った。グループに一枚大きな画用紙を配り、まずは全員が書いた付箋を内容を説明しながらそこへ貼らせた。互いの考えを伝え合ったところで、似ている内容の付箋があったら、固めて貼って整理するように指示した。

あるグループでは、「〇〇しない」「〇〇する」という文末表現に着目して仲間分けしていた。違うグループでは、「登校時のこと」「授業中のこと」「休み時間のこと」のように、場面ごとに整理していた。整理をする中で、「僕たち、一緒の意見だね。」「そういう意見もいいね。」と伝え合う子どもの姿も見られた。

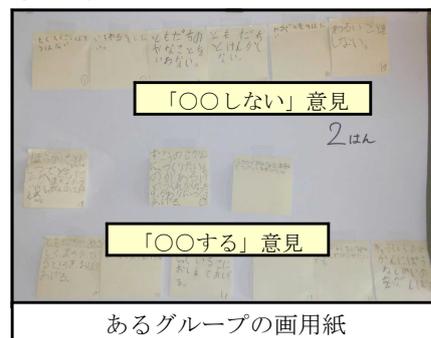
グループ活動後に、他のグループの画用紙も見て回る時間を設けた。子どもは「うちのグループと分け方が似てるね。」「この意見は出なかったな。」とつぶやいていた。



付箋を書く子ども



話し合っ  
て付箋を  
整理する様子



あるグループの画用紙

### 6 成果と課題

- 何度も貼り直すことができる付箋を用いたことで、子どもは話し合いながら繰り返し仲間分けに取り組むことができ、活発なグループ活動につながった。
- 付箋を書く段階でつまずいた子どもは、その後のグループ活動にも意欲的に参加することができなかった。一枚でも付箋を書けるような手だてが必要だった。